

暑中お見舞い申し上げます

たくさんの雨が降った梅雨でしたね。やっと夏らしい日がやってきましたが、今年は海など戸外での遊びも制限されていたり、何をするにもマスク着用や密を避けること、加えて熱中症にも気をつけながらなので思いっきり遊べる状況ではないことが残念です。でも子どもたちにはできるだけ楽しい夏であって欲しいと思います。



コロナ禍の中、家で過ごす日々がたくさん片付けをしました。しかし、転居の度に大事に移動した何十年分の手紙やはがきの山は「ようし！ すっきりするぞ！」と張り切ってはみたものの、もう一度と読み始めたら、当時のことが思い出されて捨て難く、結局はまた元に戻してしまいました。手紙類の断捨離はできなかつたけれど、私なりの発見がいろいろありました。年ごとに整理してある年賀状からは時代の変遷を感じました。パソコンの出現は大改革で、皆さんの年賀状がとてもカラフルになりました。はがきが20円、封書50円というものを見つけ「まあ〜」と思わず驚きの声か。

以前はメールやビデオ通話など便利なものが無く、また、遠距離の電話代も高かったのでどの年代の人も良く手紙を書いていたように思います。一生懸命書いたであろう小さな子たちからの絵入り手紙、今はもう会えない人からのぬくもり溢れる手紙など、どれも宝物です。時間もお金もかかるけど、たまには手紙を書こうかなとそんな気持ちになりました。

夏のお手紙ミニ知識

暑さの厳しい季節に相手の健康を気遣い、こちらの無事や近況を伝える言葉が、メールにはない温もりで互いの心が通い合います。小暑(7月7日ごろ)から立秋の前日(8月7日ぐらい)の間に送るのが暑中見舞い、立秋から処暑の候(9月8日ごろ)に送るのが残暑見舞いとするのが通例で、実際の暑さより暦が基準となります。このミニ通信の冒頭のような決まり文句を書く場合、句読点は要りません。

相田さんの言葉ご紹介

私の、このへたな文字、つたない文章も、見てくれる人のおかげで書かせていただけるんです。

「おかげさんで」でないものは、この世に一つもありません。

みんな「おかげさんで」で成り立っているんです。相田みつを



*181号となったミニ通信をお読みくださりありがとうございます。バックナンバーはキッズポケットのホームページからご覧いただけます。